


特定非営利活動法人 日本免疫学会
2022 年度 前期 Tadimitsu Kishimoto International Travel Award
研究発表報告書

申請者氏名	伊東瑛美	会員番号	0036990	
申請者の所属・職名	大阪大学微生物病研究所 分子免疫制御分野			
出席会議名	EMBO Workshop CD1/MR1-restricted T lymphocytes			
発表論文タイトル	Novel antigen for mucosal-associated invariant T (MAIT) cells			

実施結果:

この度は、Tadimitsu Kishimoto International Travel Award に採択いただき、誠にありがとうございました。岸本忠三先生をはじめ、選考していただいた先生方に御礼申し上げます。

本トラベルアワードによるご支援のもと、Sweden の Gothenburg にて開催された EMBO Workshop CD1/MR1-restricted T lymphocytes に参加いたしました。本会議は、自然免疫型 T 細胞を中心とした最新の研究を議論するべく、当分野の第一人者が集結し 3 年毎に開催されております。発表された研究内容は全て刺激的で、最新の知見を得るとともに、自分の研究の位置づけを初めて客観的に捉えたように感じました。発表の中には、図らずも自身と同じ着眼点の研究があり、Science の世界の共時性に感銘を受けました。また、同世代の研究者の発表にはとりわけ鼓舞されました。今回私は、長らく不明であった MAIT 細胞の内因性抗原を同定し、これに関する報告をいたしました。新規抗原に関する報告は非常に興味を引く一方、懐疑的な意見の存在もまた懸念しておりました。しかしながら、多くの研究者がポジティブな姿勢で興味を持ち、議論を深め、新たな可能性を示唆してくれました。

学会終了後に MAIT 細胞研究の権威である France、Curie 研究所の Olivier Lantz 先生を訪問いたしました。常に第一線で活躍し、蓄積された知見があるにも関わらず、新しい論説に対する柔軟な姿勢が印象的でした。また、研究室の方々の活力ある姿に触れたことは、海外留学を積極的に検討する機会となりました。

最後に、本学会に至るまでに私の可能性を信じ、背を押し続けてくださった推薦者の山崎晶先生に感謝申し上げます。また、一緒に走り、励ましてくださった共著者の先生方と研究室の皆様に感謝申し上げます。